

和歌山県支部

『観光立県・和歌山県の観光の現状と課題』に関する調査研究

和歌山県は従来から観光産業による地域活性化を図ってきたが、過去の観光客の入り込み状況は横ばいか、やや減少傾向であった。

平成 16 年 7 月 7 日に「紀伊山地の霊場と参詣道」がユネスコの世界遺産リストに登録されたが、その大半は和歌山県内の遺産である。

ユネスコの世界遺産リスト登録を機会に、和歌山県の各地でさまざまなイベントやキャンペーンが実施されているが、その結果、観光客の入り込み状況がどのように変化したのか、今後の状況はどのようなになるのか、また、今後観光客の誘致をより多くするには何をすべきかの提言等を調査・研究した。

調査・研究の概要は、「和歌山県内観光客の状況」「地域別の観光客入り込み数」「世界遺産登録後のイベント」「観光実態調査結果」「観光客動向調査」「第三者機関調査による和歌山・世界遺産の位置づけ」「各種調査からみた問題点」「観光産業の経済的影響・効果」「和歌山県の観光振興のための課題と提案」である。

これらの調査・研究からわかったことは、「紀伊山地の霊場と参詣道」がユネスコの世界遺産リストに登録された結果、和歌山県への観光客の入り込み数は確かに増加したが、観光客に注目されるような施設建設やアピール施策の差により、観光地によって大きな差があるということ、和歌山県の観光地の認知度は全国的に非常に低いということである。

今後の和歌山県の観光振興のための提言として、

- (1) 和歌山県の観光地としての知名度・魅力度アップ対策
- (2) 観光行政組織の充実（組織・人材・予算・広域連携）
- (3) 県下あげての真のホスピタリティの認識と醸成
- (4) 交通アクセスの整備
- (5) 外国人観光客の受け入れ体制の整備
- (6) 温泉観光の振興対策
- (7) グリーンツーリズムの推進を取り上げた。

これらの提言を各観光地が互いに連携をとりながら実施していけば、和歌山県の観光産業への経済的効果も発揮されるであろう。